

吉野の離宮に幸行さむ時のために儲け作る歌

一首 并せて短歌

四〇九八番

高御座 天の日継と 天の下 知らしめしける  
皇祖の 神の命の 恐くも 始めたまひて 貴  
くも 定めたまへる み吉野の この大宮に あ  
り通ひ 見したまふらし もののふの 八十伴の  
緒も 己が負へる 己が名負ひて 大君の 任せ  
のまにまに この川の 絶ゆることなく この山  
の いや継ぎ継ぎに かくしこそ 仕へ奉らめ  
いや遠長に

反歌

四〇九九番

古を 思ほすらしも わご大君 吉野の宮を  
あり通ひ見す

四一〇〇番

もののふの 八十氏人も 吉野川 絶ゆることな  
く 仕へつつ見む